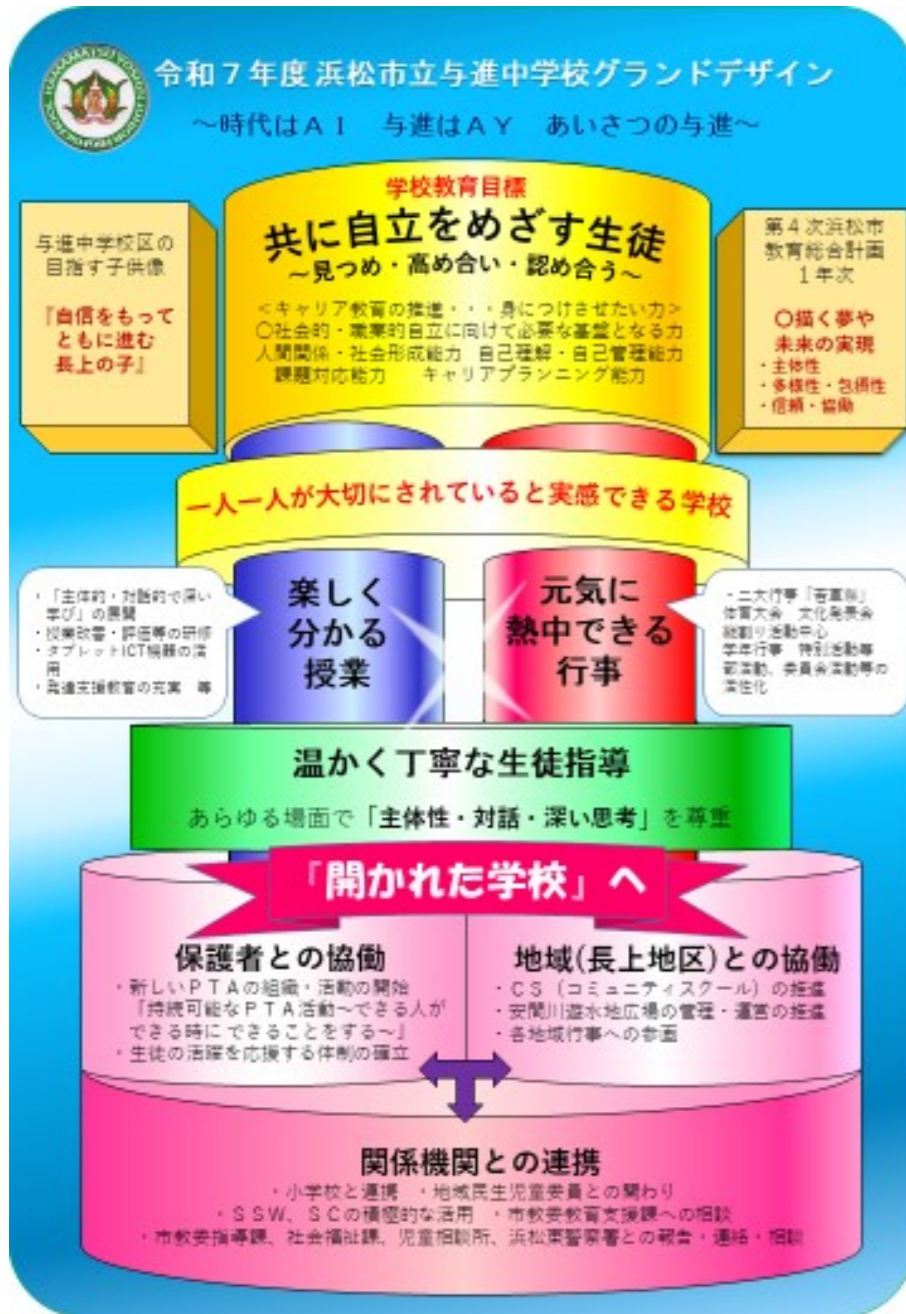


# 令和7年度 与進中学校 学校評価

## 令和7年度の取組

## 生徒の実態



学校教育目標「共に自立をめざす生徒～見つけ・高め合い・認め合う～」の実現のためには、その土台となる学校全体に漂う穏やかで和やかな雰囲気が大切であり、生徒同士が互いに認め合える空気感ともいえるべき「望ましい学校風土」が重要である。

そのような「学校風土」を築き上げるため、教職員は生徒理解に努め、様々な支援や指導において、生徒自らが「主体的に・対話的に・深く考える」ことができる場面を設定し、「多様性・包摂性」を尊重した「温かく丁寧な生徒指導」を積み重ねていく。そして、日々の「楽しく分かる授業」と「元気に熱中できる行事」の実践を通して、生徒が自己と他者との関わり合いの中で互いに認め合いながら、「描く夢や未来の実現」のために、これからの時代を幸せに生き抜くための考え方や力を身に付けることで、学校教育目標の具現化を図っていく。

- ・素直で明るく、穏やかな生徒が多い。
- ・行事や部活動に熱心に取り組む生徒が多い。
- ・基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いておらず、携帯電話やゲーム等を夜遅くまで使用し、昼夜逆転してしまう生徒が複数いる。
- ・授業に真面目に取り組む生徒が多く、基礎基本を問う問題に対しては一生懸命に取り組む反面、難易度が少し上がると諦めてしまい粘り強さに欠ける。
- ・積極的に話し合い活動をするが、話し合ったことをもとに自分の考えを広げたり、深めたりすることを苦手とする生徒が多い。

### 具体的な取組

2本柱「楽しく分かる授業」「元気に熱中できる行事」の実現に向けた取組

#### 【生徒】

- 「3分前入室→2分前着席→1分前黙想」
- 授業目標の設定と振り返りの充実
- 自分で考える時間、仲間と支え合ったり、考えを練り合ったりする時間、自分の考えを再構築する時間の充実

#### 【教職員】

- 学校運営組織の適正化
  - 教務・外務部、望ましい学校風土G、楽しい授業G、元気な行事G、事務部の5つのグループ編制とのりしるを意識した連携の重視
- 校内研修(教科部会・OJT)の充実
  - 「学習評価」の理解と授業実践
    - ・学習評価の正しい理解
    - ・学習方法や指導方法の工夫(主体的に、対話的に、深く考えるための)
  - 情報教育(教育の情報化)への対応
    - ・生徒用学習タブレットの活用
    - ・Meet 放送の活用(式・集会等々)
    - ・さくら連絡網の有効活用
  - 発達支援教育への理解を深める
- 業務の重点化・スリム化
  - ペーパーレス化(会議資料・保護者宛文書)
  - PTA活動の見直しと効率化

### 「学校評価アンケート」より

アンケート項目	生徒	保護者	教職員
学校として、学校教育目標「共に自立を目指す生徒」の育成ができた。	98	78	98
私(先生)は、「楽しく分かる授業」が実践できた(～していた)。	94	70	90
学校として「元気に熱中できる行事」を実現することができた。	98	91	96
私(先生)は、様々な場面で生徒に主体性をもたせ、対話的に関わり、深く考えるように支援・指導することができた(～していた)。	96	78	87
学校として、「望ましい学校風土(穏やか・和やか・認め合う・話し合う空気感)」が醸成できた。	94	78	97
私(先生)は、「温かく丁寧な生徒指導」ができた(～していた)。	95	79	92
私(先生)は、生徒との良好な信頼関係が築けた(～築けていた)。	96	80	97
学校として、「AY(あいさつの与進)」が実現できた。	96	74	72
生徒は、安心して楽しい学校生活を送っている。	96	89	99
【教職員のみ】私は、与進中学校がよりよい学校になるように、自分なりのアイデアを出し、実行できた。			71
【生徒・保護者】私(お子さん)は、目標をもって学習(授業)に取り組んでいる。	92	66	
【生徒・保護者】私(お子さん)は、目標をもって家庭学習に取り組んでいる。	86	56	
【生徒・保護者】私(お子さん)は、学校行事や部活動等に、精一杯取り組んでいる。	97	91	

※数値は、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた割合である。昨年度より上回った場合は赤色、下回った場合は青色、同じ場合は黒色で示している。

### 学校運営協議会より

- ・学校教育目標、二本柱である「楽しく分かる授業」「元気に熱中できる行事」の全ての項目について、肯定的に捉えている生徒が昨年度より上回っていることから、学校の実践が定着してきていることが伺える。
- ・技術・家庭科の授業で行った「ゆかたを着てみよう」では、生徒笑顔や振り返りの記述から、実践した成果が見られるので継続していきたい。
- ・「安心して楽しい学校生活を送っている」生徒が多いことから、いじめのない学校風土が醸成されていることが伺える。不登校生徒の居場所を確保するために校内・校外まなびの教室を活用できると良い。

### 成果・課題・改善策

- 【成果】学校生活の基盤ともいえる「生徒は安心して楽しい学校生活を送っている」という項目では、96%の生徒、99%の教職員が肯定的に捉えている。保護者も含め89%が肯定的に捉えている。さらに、二本柱である「楽しく分かる授業が実践できた」「元気に熱中できる行事を実現することができた」という項目では、生徒・保護者・教職員の90%以上が「できた」と答え、肯定的に捉えている。また、全ての項目において、昨年度よりもさらに肯定的に捉えている生徒が多いことが見て取れる。
- 【課題】青色の数字で示した項目及び太枠の項目(肯定的な意見が70%以下)が課題であると考えられる。『学校として、「AY(あいさつの与進)」が実践できた』については、保護者・教職員の項目が極端に低い。これは、「あいさつの与進」を掲げているわりに生徒の挨拶は少ないと感じる教職員が多いためではないかと考えられる。また、学習意欲に対して、生徒と保護者の意識に差がある。
- 【改善案】・挨拶については、96%の生徒が実現できていると捉えている反面、保護者や教職員はそう捉えていない。どのような挨拶が相手に気持ちが伝わるのかを生徒と考え、学校だけでなく地域に協力を仰ぎ活性化していく。  
・授業の様子や学習の成果が伝わるように、保護者に生徒の学習の様子を知らせることができるような情報発信の方法やタイミングを考える。  
・生徒が今後も継続して学校生活を安心して送れるように、「いじめは決して許されない」ことの理解を徹底していく。また、学校生活アンケートや教育相談を活用していじめの早期発見に努め、家庭や地域と連携して重大事態化を防ぐ。